

脳膿瘍より分離された *Aggregatibacter* *ahrophilus* が市販キット、質量分析検査により同定可能であった症例

○竹林孝太郎 岩崎克巳 堀田尚子 佐藤美子  
三谷智恵子 遠藤康伸(成田赤十字病院検査部)

【はじめに】*Aggregatibacter ahrophilus* はヒトの口腔内に常在する通性嫌気性グラム陰性桿菌である。HACECK グループの1つであり、時に感染性心内膜炎や脳膿瘍等の原因になるとされている。今回、脳膿瘍から分離された本菌が市販キット、及び質量分析により同定可能であったので報告する。【症例】67歳男性、既往歴は2型糖尿病。来院の前日から体調不調を主訴に当院を受診、CT検査で、脳腫瘍性病変と認めため、同日に入院した。手術時の白色膿のグラム染色でグラム陰性小桿菌を認めた。5%炭酸ガス条件下24時間培養でチョコレート寒天培地(極東)に微小コロニーを形成した。OXI(-)、CAT(-)、XV因子要求性(-)であり、IDテストHN-20ラピッド(日水製薬)を用いて生化学的性状確認をしたところ *A. ahrophilus* 99%以上と同定した。薬剤感受性試験はおおむね良好な感受性を示した。確認のため質量分析検査を行い、市販キットと同じ結果を得た。また、入院時に採取された血液培養1セットは5日間培養した結果陰性であった。【まとめ】患者は2年前から歯周病による歯肉の腫れがあり、これにより口腔内に常在する本菌が感染し、本疾患を引き起こしたと推測する。本菌は脳膿瘍の原因菌として知られているが国内での症例報告は少ない。また、従来の検査では確定診断に遺伝子解析を行うとの報告が多いが、本症例では既存の市販キットでの同定、質量分析検査での確定診断が可能であった。本症例のように市販キットでの同定が可能であれば、臨床側への迅速な結果報告が可能になると考える。

【謝辞】本検査を進めるにあたり、千葉大学病院 検査部に協力していただき、質量分析検査を行った。ここに感謝の意を表します。

連絡先 0476-22-2311(内)2292